

TEN

TEACHING ENGLISH NOW

英語教師のための情報誌

Vol.55
SPRING 2025



特集

単元のゴールを見据えた指導の計画

01 Goalに向けたつながりのある指導を目指して 工藤 洋路

連載

- 05 英語教師のための基礎講座 ICT活用の心得 根岸 雅史
- 06 Essay Early Lessons, Lasting Influence Matthew Miller
- 06 リクツで納得! 学校英文法の「文法」NP問題 亘理 陽一

SANSEIDO

単元のゴールを見据えた指導の計画

中学校卒業時の目標達成に向けては、学年や学期、そして単元ごとにゴールを設定して指導を行うことが必要です。本特集では、新しいNEW CROWNを例に、単元のゴールの活動(Goal Activity)の指導の計画や留意点について、工藤洋路先生に解説していただきます。

Goalに向けたつながりのある指導を目指して

工藤 洋路
(東京外国语大学)



はじめに

令和7年度版NEW CROWNでは、「練習」だけでなく、「活用」を促す活動を、単元の序盤から配置しました。外国語の習得方法はさまざまに考えられますが、PPP (Presentation - Practice - Production)で展開する指導を受けた場合、活用するために必要な言語材料をいったんしっかりと練習するという段階を経験します。外国語の習得に練習は大切ですが、「どの程度練習をすればよいか?」という疑問に対して、明確な答えを見出すことは困難です。その理由は、外国語は練習するだけでなく、活用することで身につくものだからです。したがって、練習しつつ、活用する段階(=言語活動を行う段階)を早くから取り入れることで、練習と活用の相互作用によって、英語の習得を促進することが必要になります。今回の改訂では、練習と活用の段階を分けるのではなく、単元を通して、両者を同時進行的に行えるように設計しました。新しいNEW CROWNでは、「まず使ってみる、そしてもっとうまくいくように練習する」とか、「習ったらすぐに使ってみる、使ってみてうまくいかなかったら練習する」というような、フレキシブルな学習スタイルを実現することができます。

「練習」と「活用」を同時進行的に行う
新しいNEW CROWNのレッスン構成



「まず使ってみる」を体現しているものの一つは、Partの冒頭に配置されたSmall Talkです。ここでは、新しい文法事項や語彙など

を学ばなくても、それまでに学習した言語材料を使って取り組むことができるようなテーマが設定されています。Small Talkはその名の通り、規模が大きい活動ではないので、時間をかけて準備する必要のない、即興で話す活動となっています。次に、新しい文法事項を学ぶScene 1のCheckとExerciseに進みます。ここでは、文法事項のルールに気づき、その文法事項を使った文を聞いたり、話したり、書いたりすることで、新しい知識及び技能を学びます。

知識及び技能を「生きて働く」ものにするためには、思考、判断、表現する中で活用することが必要です。新しい教科書では、この活用の機会を、**単元末のGoal Activity**の言語活動だけでなく、**Partの段階**から、**Small Talk**、**Listen & Read**、**Think about Yourself**などを設定することで、Partが知識及び技能を練習する場となるだけでなく、活用するための重要な位置づけにもなっています。

新しいNEW CROWNでは、各レッスンの最後にGoal Activityという名の言語活動が設定されています。Goal Activityには、活動のメインが発信領域のもの (Write / Speak) と、受容領域のもの (Read) があります。先に述べたとおり、Small Talkなど、レッスンの最初の段階から自分の伝えたいことを発信する活動が設定されていることから、必ずしもレッスンの最後の活動が発信型のものである必要はありません。英語の習得は、意味が理解できるものたくさん聞いたり読んだりすること（いわゆるインプットの充実）が必須のため、受容型の活動でレッスンを締めることも1つの選択肢となります。もちろん、レッスンを通してトピックを深めたり、言語材料の定着を図ったりしていくと、最後は、生徒が伝えたいことを発信することも必要になるため、最後が発信型のレッスンも用意しています。

本稿では、発信型と受容型の2種類のGoal Activityの言語活動の特長や指導のポイントについて概説します。

Goal Activity (Read + Write) (Read + Speak) の特長

発信型の「Write / Speak」は右の表の通り、各学年において、複数の単元に設定されており、主たる活動がWrite 「書くこと」の単元とSpeak 「話すこと」の単元に分かれています。また、2・3年生のLesson 1を除いて、すべて見開きの2ページで構成されており、左ページにモデル文（Speakであれば発表メモ）が載っています。このモデルは、教科書の登場人物が作成したという設定になっており、同ページの二次元コードから、その人物がモデル文を作った過程をアニメーションで視聴することができます。ここで出来上

	発信領域		受容領域
	Write (書くこと)	Speak (話すこと)	Read (読むこと)
1年生	Lesson 6, 8	Lesson 5	Lesson 7, 9
2年生	Lesson 2, 4, 7	Lesson 1, 5	Lesson 3, 6, 8
3年生	Lesson 2, 4, 5	Lesson 1, 7	Lesson 3, 6, 8

(※1年生のLesson 1～4は「書いてから話す」という言語活動)

がった文章はモデルとして活用することが可能ですが、最終的にはモデルがない状況でも自力で書くことができるようになります。そのためには、文章が出来上がるプロセスを学ぶ必要があることから、単にモデルを参照するだけでなく、それが完成したプロセスに着目します。そして、右ページでは、そのプロセスを参考にしながら、設定されたステップに従って、実際に書いたり、話したりする活動になっています。

「Write / Speak」では、どの単元の活動においても、英語によるコミュニケーションを行うまでの目的・場面・状況が設定されています。生徒と一緒に、誰に向けて、何のために伝えるかということを確認した上で、書くことや、話すことの言語活動に取り組むことができます。

Goal Activity (Read + Write) (Read + Speak) の特長

受容型の「Read」は右の表の通り、各学年において、複数の単元に設定されています。特徴としては、多様なテーマの英文を読むことだけではなく、3つのジャンル（説明文・物語文・意見文）の文章の読み方を、3年間を通してそれぞれ2～3回学習することができます。この読み方の学びを引き起こすために、ジャンルや文章の内容に合わせて、要点理解、概要理解、詳細理解などを促進する問い合わせや活動が段階的に設定されています。

例えば、3年Lesson 3では、佐々木禎子さんについて書かれた

	Lesson	ジャンル	媒体	テーマ
1年生	7	説明文	雑誌	スポーツ
	9	説明文	新聞	防災
2年生	3	物語文	ウェブマガジン	パン店の記事
	6	意見文	メール	お礼のメール
	8	意見文	新聞	インタビュー
3年生	3	物語文	パンフレット	人物の伝記
	6	説明文	ウェブサイト	fairness
	8	意見文	情報誌	ことば

文章を読みます。この英文は物語文であることから、概要理解をすることになりますが、理解を促進するために、以下の3段階のリーディングタスクを設定しています。

3年 Lesson 3 物語の概要をとらえよう

- Guide 1** どんなできごとがあったかを考えながら、時を表す表現に下線を引こう。
- Guide 2** 物語の順になるように、()に番号を書こう。
【物語を表す5枚のイラストに対して】
- Goal** 物語の内容を整理しよう。
【年表で表された出来事の文章を穴埋めする】

このように、Goalで示された最終的に必要な読み方（上記の例では概要理解）を支える複数の下位スキルを伸ばすために、Guide 1→Guide 2の2段階で設定された活動に取り組むことで、リーディングスキルを積み上げながら習得することができます。

Goal Activity (Read + Write) (Read + Speak) の指導の流れと留意点 (例: 1年Lesson 6)

Part 1



パート	活動内容	学習ポイント
Small Talk	好きな教科について、ペアで話してみよう。	・トピック
Exercise Speak	絵を見て、それぞれの人物が何をしているか説明しよう。	・言語材料
Think about Yourself	海外の人に話すつもりで、休み時間や昼休みにしていることについて、写真を見せながら説明しよう。	・設定 ・トピック ・構成や展開

Part 2



パート	活動内容	学習ポイント
Small Talk	好きな給食やお弁当について、ペアで話してみよう。	・トピック
Exercise Talk	絵を1つ選んで、ペアでクイズを出し合おう。	・言語材料
Think about Yourself	海外の人に話すつもりで、学校の昼食について、写真を見せながら説明しよう。また、聞き手は質問しよう。	・設定 ・トピック ・構成や展開

指導の留意点

ここでは、Goal Activity で使う現在形（一般的な事柄の説明）とターゲットである現在進行形（写真の描写）を意識させたい。例えば Small Talk の指示では “I am speaking English now, and you are studying English. Do you like English?” “Now, talk about your favorite subjects.” のように現在進行形を含めるとよい。また、Scene 2 の英文を扱う際は、第1段落では現在形で一般的な内容を表し、第2段落では現在進行形で写真を描写していることを確認し、後の Think about Yourself の活動でもこの構成を使えるように指導したい。

指導の留意点

生徒からターゲットである現在進行形の疑問文を引き出すためには、絵や写真中の人物の動作や行動を尋ね合う活動を設定する必要がある。例えば、Exercise や Scene 1・2 の動作や行動を尋ねる場面では、なぜ尋ねているのか、どのような文構造を用いているのかを確認させたい。また、Think about Yourself では、「海外の人に話すつもりで」や「聞き手は質問しよう」という設定を活かし、写真を見ただけでは人物が何をしているかわからないので、現在進行形の疑問文を使って質問するという活動につなげるとよい。

Goal Activity (Read + Write) (Read + Speak) の指導の流れと留意点 (例: 1年Lesson 7)

とびら



パート	活動内容	学習ポイント
とびら 写真	・写真にある3つのスポーツのルールを説明してみよう。 ・好きなスポーツについて話してみよう。	・トピック

指導の留意点

とびらにある“What is your favorite sport?”の質問を活用し、題材について生徒一人一人が持っている知識をクラスで共有する。その際、Goal Activity の文章が、個人スポーツのスケートボードとチームスポーツのカーリングについて書かれていることをふまえて、個人とチームに分けて板書するなどし、その違いを考えさせてよい。また、スポーツ選手にフォーカスを当て、“Who is your favorite athlete?”という質問を続けることができる。

単元のターゲットである過去形については、小学校で学んできた “enjoyed (楽しんだ)” という表現を活用して、“I enjoyed soccer in elementary school. How about you?”などと尋ね合い、小学校で学んだことがどの程度使えるようになっているかを把握するとよい。

Part 1



パート	活動内容	学習ポイント
Small Talk	好きなスポーツについて、ペアで話してみよう。	・トピック
Exercise Listen	車いすバスケットボールの体験会で、ジンが体験した順に、() に番号を書こう。	・言語材料
Think about Yourself	中学生になって、あなたが一番がんばったことについて話そう。	・設定 ・トピック ・構成や展開

指導の留意点

過去形は過去のことを表すときに用いる文法事項であるため、「どんな時に使うか」は比較的理 解しやすい。Scene 2 の文章では、現在形と過去形が使われているため、それぞれの文で使われている動詞がどちらであるかを確認し、英文の意味を捉えられるように指導したい。また、Scene 2 の文章展開 (started → had, set, reached → became) が、短いながらも Introduction → Body → Conclusion になっていることに着目し、Think about Yourself の活動においてもこの流れを使って自分のことを伝えられるようにしたい。

Side Story /
Small Talk Plus



パート	活動内容	学習ポイント
Side Story Exercise	どちらの食べ物がほしいかペアでたずね合おう。	・トピック ・言語材料
Small Talk Plus	What do you like about your school life?	・トピック ・言語技術

指導の留意点

海外にはデザートを自由に購入できる学校もある。教室で弁当や給食を食べる日本の中学校では、このような機会はないため、Side Story を通して海外と日本の学校の違いについて理解を深めたい。また、Exercise では、この Side Story の設定を活かすと、「来週の水曜日の昼食を選ぶとしたら」という架空の設定になる。これを活かして、Exercise の①～④で示されていない食べ物のペアを自由に考えてやり取りさせたい。一方、Small Talk Plus では、Tips! にある「感想を伝える」や「理由を付け加える」は、Goal Activity のモデルにはないが、加えて書くことができる要素となるため、単元のゴールに繋がる活動として取り組むとよい。

Goal Activity
[Write]



パート	活動内容
Goal Activity [Write]	アメリカに住んでいるケビンからアメリカの学校生活を紹介するメールが届きました。日本の学校生活や行事を紹介する返信メールを書いて、花たちと一緒に送ろう。(写真を添えて)

指導の留意点

まず、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況」を確認し、日本の学校生活や行事を紹介してほしいと尋ねているのはケビンであることを確認する。また、ケビンがマークの友達であることやケビンの学校のことについても、自分たちがある程度知っていることを確認したい。一方、ケビンはアメリカにいるため、日本のことについて詳しくない可能性が高く、日本の学校について説明する際は詳しく述べたほうがよいことを共有するとよい。その際、ケビンから届いたメールでは、学校で学ぶ外国語について詳しく説明されていることに注目させ、1つのことを詳しく書いた方が、相手が理解しやすくなることを読み手の視点で理解させるとよい。Part で学んだ言語材料についても、活動に取り組む前に振り返っておくとよい。

Part 2



パート	活動内容	学習ポイント
Small Talk	好きなことばについて、ペアで話してみよう。	・トピック
Exercise Talk	週末にしたことについてペアで話そう。	・言語材料
Think about Yourself	運動や勉強などで成功したことや失敗したことについて話そう。また、聞き手は質問しよう。	・設定 ・トピック ・構成や展開

指導の留意点

ここでは、過去形の疑問文を用いて質問をする技術を高めたい。ExerciseのTalk では、質問する側が疑問文を使って会話をスタートするパターンの練習を行う。Think about Yourselfでは、聞き手は相手の話の途中で質問することが求められるため、Scene 2のインタビュー記事で、聞き手が興味や疑問を持ったことについて、話し手に質問をしている点に着目せるとよい。また、その会話展開を参考にして、教師が “I went to a bookstore yesterday.” などと会話を始め、生徒には “Did you buy a book?” などと質問をさせたい。

Goal Activity
[Read]



パート	活動内容
Goal Activity [Read]	スポーツ雑誌にスケートボードとカーリングの記事が掲載されています。記事を読んで要点をとらえよう。

指導の留意点

Readでは、Guide → Goal の順にタスクに取り組むことで要点や概要を捉えられるようになっているが、理想的には、このステップを踏まなくとも要点や概要を理解できるようにすることが大切である。そのために、まず Guide を行う前に自力で文章を読ませ、「どんなことが記事のポイントだったか」「それぞれの記事のキーワードは何か」など、要点に関わる発問を通して、生徒がどの程度理解できているかを確認するといい。また、2つの記事はどちらも最後の段落が要点となっていることに気がつけば、Goal の英文を完成させることができる。その際に、最後の段落に着目させるだけでなく、Goal の英文の根拠となる箇所や関連の強い箇所を、それぞれの記事の中から探しして共有するなどしたい。

ICT活用の心得

根岸 雅史 Negishi Masashi (東京外国語大学)

① 英語教育におけるICTの特性を確認する

英語教育におけるICTの利用には、どのような特性があるでしょうか。私は、「個別化」「コミュニケーション」「効率化」の3つの特性があると考えています。

生徒の知識や技能はみな異なります。生徒が発信したいこともみな異なります。これを1人の教師が授業中すべてに対応することはほぼ不可能ですが、ICTは生徒それぞれの誤りに対応したり、言いたいことを個別に教えてくれたりします。

また、ICTは、離れた人と人をつなぐこと（つまり、「コミュニケーション」）を容易にしてくれます。教室内のどの生徒からであってもフィードバックやメッセージのやりとりができますし、教室の外の人たちと（それが海外の人たちであっても）のやり取りもできます。

最後に、ICTを使うことで、英文や音声、資料動画、正解などを瞬時に提示することができます。オーラルリントロダクションさえも教師に代わってやってくれます。授業の「準備」「実施」「振り返り」までのプロセスを容易にしてくれます。こうした授業の「効率化」もICTの重要な特性です。

② とりあえず、色々試してみる

ICT活用に当たっては、詳しく学んでから使うというよりは、とりあえず、色々試して

みるのがよいと思います。私たちは、電化製品を購入すると取扱説明書の「クイック・スタート・ガイド」のようなものにざっと目を通したら、あとはあれこれ触ってみて、とりあえず自分のやりたいことをできるようにするのではないかでしょうか。しばらくはそれで十分です。そして、少し時間がたったところで、周辺的な機能に気づいていきましょう。この気づきはどうして起こるのでしょうか。もちろん、色々と触っているうちに知らない機能に気づくこともあるでしょう。ICTの勉強会のようなところで、系統的に学ぶこともあります。しかし、意外と、他の人が使っているのを見ることがきっかけだったりします。「えっ、今何したの?」というようなときが、新機能との出会いのチャンスです。見ただけではわからない機能については積極的に聞いてみましょう。

③ 「どういう授業をしたいか」の視点からツールを選択する

機能をあらかじめ確認したところで、これらの機能を利用して「どういう授業ができるか」にあれこれ思いを巡らせてみましょう。ただし、用意されている機能をすべて使う必要はありません。使える機能をにらみながら、自分が「どういう授業をしたいか」を考え、自分の授業で使う機能を取捨選択するとよいでしょう。そうすることで、教師は何を自分で補う必要があるかを確認す

ることができます。

④ ICTの教室外利用も視野に入れる

ICTの利用は教室内に限ったことではありません。学習者用デジタル教科書（教材）についても、教師はどのような機能があるかをよく理解した上で、宿題などを課す必要があります。ただし、ICTを使って出しやすい宿題に偏り、大切な宿題を忘れないかの確認が必要です。

また、ICTの教室外利用は学習者用デジタル教科書（教材）に限りません。PISAの英語教育の調査でも、世界の中学生の多くが教室外でネット上の様々なツールやコンテンツを利用して英語を学習していることがわかっています。日本人の中学生であっても、彼らの興味・関心に合ったツールやコンテンツを利用することができるでしょう。例えば、Premier Skills Englishというサイト (<https://premierskillenglish.britishcouncil.org/>) では、サッカーを題材にした英語学習のためのリソースをたくさん見つけることができます。もちろん、こうした英語学習サイトだけでなく、趣味（たとえば、好きなサッカーチーム）のサイトのような生の素材に生徒がアクセスすることも可能です。ことばが伝える真のメッセージとの出会いです。こうした活動を通して、生徒は世界と繋がる英語を実感するはずです。



Matthew Miller (Tokyo University of Foreign Studies)

I have had a life-long love affair with learning foreign languages. I started my career teaching French at a high school in the United States, and I now teach English in a Japanese university. I feel fortunate that I have always been able to do what I love, and I have my first French teacher to thank for this.

My elementary school began teaching us French from the first grade. Games, songs, movies, and other activities introduced French language and culture in a fun and positive way. Tests, quizzes, homework, and textbooks were conspicuously absent. The focus was on input and enjoyment.

My favorite part of class was reading time. Our teacher, Madame Surbeck, would show us French magazines, newspapers, cookbooks, postcards, maps, and other written materials and let us look at them freely. Instead of telling us anything, she patiently waited until we asked her about the words and images we were particularly interested in. I think this was a brilliant way to naturally and subtly entice us into the world of French language. We ended up learning language for what we wanted to know and not forced to memorize words from some pre-

determined list. This student-directed approach fed our curiosity and motivated us to want to know more.

As a more controlled activity, Madame Surbeck would read aloud from French children's books and, since we understood almost nothing, she would ask us what we thought was happening in the story, gently correcting us and guiding us through the text. My favorite was the Asterix series of comic books which were set in the present-day area of Brittany, France. These stories inspired me so much that I re-read all the books in high school and even did a homestay in Brittany once I got to university. It cannot be overstated that my elementary school foreign language education had a deep impact on me, my career, and even the way I teach.

I recently found out that my elementary school has replaced French with Spanish. It made me a little sad, and I wondered what happened to all of the Asterix books. On the other hand, I am happy to know that the students there are still getting an early foreign-language education that will influence them for the rest of their lives.



リクツで納得! 学校英文法の「文法」 亘理 陽一（中京大学）



中学生にとって英文法の鬼門といえば複合名詞句である。とりわけ、私が長い間疑問を抱え続けたのは、例えばour school buildingのような名詞句と、前置詞（特にof）句を持つ名詞句（the building of our school）の違いは何なのか、ということだった。

Coldplayの“Viva La Vida”にも、“pillars of salt and pillars of sand”とあるが、これはsalt pillarsやsand pillarsではダメなのか。逆に、“Jerusalem bells”や“Roman cavalry choirs”をthe bells of Jerusalem, the choirs of Roman cavalryとすると何が変わるのであるか。フランス革命によって処刑されたルイ16世が最後に行おうとしていたスピーチが題材というこの曲を聴きながら考えてみよう。

形容詞や名詞を前に置いて修飾するのであれ（前置修飾）、後ろに置いて修飾するのであれ（後置修飾）、複合名詞句によって一つの文で多くの情報を伝えることができる。Carterらが実例を通じて明らかにしているのは、前置修飾の名詞句がより描写・解説的なスタイルを作り出し、広告や新聞・雑誌、詩によく用いられる一方、後置修飾は、その名詞の情報を広げたり、より正確に定義したりするスタイルを作り出し、学術的な文章やくだけた会話でよく用いられるということだ（Carter, R., Hughes, R., &, McCarthy, M. (2000). *Exploring Grammar in Context*.

Cambridge University Press. pp.124-128. ただし、関係代名詞節の使用状況については第11回 (TEN 50) も参照。

前者の典型例が、NEW CROWN (以下NC) のウェブサイトの旅行商品の紹介 “SKI VACATION PACKAGES” (NC3, p.94) やイベントのチラシ “International Music Festival” (NC3, p.105) の見出しだる。後者の例は教科書のあちこちに見られるが、例えばジンが “Have you seen the anime Captain Tsubasa?” と尋ねた際、花は “Yeah, it's about a talented soccer player who can do amazing tricks.” と答えている (NC3, p.58)。“a talented and amazing-trick soccer player” とはしないわけだ。

しかし、冒頭のour school building / the building of our schoolの例の場合、どちらも変わりはないように思える。実はCarterらによれば、ある名詞句がその文脈で最初に用いられる場合、前置詞ofによる後置修飾で導入されることが多く、その情報が再び持ち出される場合、名詞+名詞の形で繰り返されるという。

それゆえ、佐々木禎子さんの物語において、6年生の時に彼女が選ばれたのは “a member of the relay team (for the school's sports day)” となる (NC3, p.32)。なぜならこの時点では、禎子さんが運動が得意で足が速かったこと

は述べられているが、運動会のリレーの話は初出だからである。ただ、こうして導入した後であれば、別のメンバーのことについて “another relay team member ...” と続いても全く不自然ではない。

“Viva La Vida”的場合も、処刑直前のルイ16世に実際に聞こえているわけではないにせよ、“Jerusalem bells”(エルサレムの鐘)や “Roman cavalry choirs” (ローマ騎兵隊の聖歌隊) は彼にとって、新たに導入する情報というより、前提知識の類に属するものだと解釈できる。他方、自分の城が立っていた場所の比喩はこのスピーチの聞き手にとって予め想定できることではないから、“pillars of salt and pillars of sand”という形で導入するほうが自然である (“pillars of salt”が、ソドムの街から脱出する際、後ろを振り向いてはいけないという神の言いつけを守らなかつたために塩の柱にされてしまったという旧約聖書のエピソードにちなんだ表現であったり、歌詞として “stand” と “sand” で韻を踏んでいたりすることもあるにせよ)。

スタイルや文脈という視点から、これまでに出会った名詞句を改めて見分してみると新たな発見があるかもしれない。「これを前置修飾（後置修飾）に言い換えたら…」と生徒が考え出してくれたらしめたものである。

令和7年度版

NEW CROWN

学習者用デジタル教材のご案内

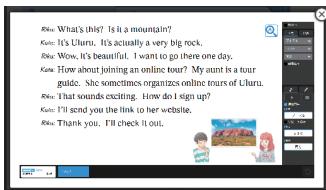


レベル別の学習コンテンツと学習記録で自学をサポート!



日々の学習をサポートする機能とコンテンツ!

●教科書・教材一体型



学習者用デジタル教科書に加え、デジタル教材としての追加コンテンツ・機能をシームレスに利用することができます。

●ワーク・ドリルコンテンツ



教科書の本文・語句に沿った4技能の学習を積み重ねられる、ワーク・ドリルコンテンツを豊富に収録しています。

●家庭学習モード



デジタルコンテンツを活用しやすくする 『家庭学習モード』を搭載!

家庭学習モードでは、生徒ひとりひとりのレベルや技能に応じた効果的な学習メニューを提案します。提示された学習メニューに取り組むことで、日々の学びを積み重ねていくことができます。さらに、学習履歴の記録・閲覧機能を使って、学びのふり返りが可能です。



「辞書付」なら、教材にプラスして辞書も使える!



学習者用デジタル教材「辞書付」なら、最新の『ジュニアクラウン中学英和・和英辞典第13版』が丸ごと活用できます。語彙学習の強化に!

■学習者用デジタル教材[教科書・教材一体型]

品名	ライセンス期間	ライセンス形式	価格
学習者用デジタル教材 (各学年)	教科書刊行期間	生徒あたり 1ライセンスが必要	550円(税込)
学習者用デジタル教材 辞書付 (各学年)	教科書刊行期間※	生徒あたり 1ライセンスが必要	1,100円(税込)

*辞書コンテンツのみ、購入年度内に限り有効。継続してご利用いただくためには次学年の購入が必要です。

別途、デジタル教科書の販売もございます。価格等の詳細はお問い合わせください。

本紙掲載の会社名、製品名、商品名などの名称は、各社の登録商標または商標です。

*株式会社Lentrance の提供するLentrance Readerでのご利用となります。対応環境は、Lentrance Readerに準じます。

*学校採用専売の商品です。一般向けに販売する商品とは異なります。

ご案内

文部科学省「令和7年度学習者用デジタル教科書の導入」について

提供の詳細につきましては、弊社ホームページにてご案内しております。

学習者用デジタル教科書の体験版もご覧いただけます。

<https://tb.sanseido-publ.co.jp/digitaltext/support/>



三省堂

〒102-8371 東京都千代田区麹町5-7-2

三省堂 教科書・教材サイト <https://tb.sanseido.co.jp/>

※この冊子は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って配布しております。

授業のお役立ち情報を発信／

三省堂
LINE 公式アカウント



三省堂